

地震・津波対策特別委員会会議録

〔平成24年 1月13日開催〕

南あわじ市議会

地震・津波対策特別委員会会議録

日 時 平成24年 1月13日
午前10時00分 開会
午前11時37分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（9名）

委 員 長	谷 口 博 文
副 委 員 長	長 船 吉 博
委 員	久 米 啓 右
委 員	森 上 祐 治
委 員	出 田 裕 重
委 員	阿 部 計 一
委 員	印 部 久 信
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	蛭 子 智 彦
議 長	楠 和 廣

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職氏名

副 市 長	川 野 四 朗
総 務 部 長	淵 本 幸 男
防 災 課 長	松 下 良 卓

Ⅱ. 会議に付した事件

1. 今後の特別委員会の進め方について…………… 3

Ⅲ. 会議録

地震・津波対策特別委員会 平成24年 1月13日(金)

(開会 午後10時00分)

(閉会 午後11時37分)

○谷口博文委員長 それでは、皆さんおはようございます。座ってお願いいたします。

今後の特別委員会の進め方ということで、委員各位のさまざまな御意見をちょうだいして、提言というか、そういう方向に持っていきたいなと思っております。

それで、皆様方のお手元には、南あわじ市地域防災計画の地震対策編というような、こういう冊子と、それと市町津波災害対応マニュアル作成の手引きというようなやつと、それと大分県の、後でも目を通していただきたいんですけど、特別委員会中間報告書というて、大分県議会が危機管理対策特別委員会というやつを立ち上げた段階で、災害発生の初動についてであったり、避難等の周知についてであったり、要援護者の避難についてであったり、自主防災組織等の活性化及び地域住民の危機意識の醸成について、また防災訓練のあり方について、学校等の防災対策、防災教育について、福祉施設等の防災対策について、ハザードマップの充実について、避難路整備について、避難場所、備蓄物資等について、また海からの視点に基づく大規模火災対策等についてというようなことで、地域防災計画等々への提言をされておるようなやつを参考にして、今後進めていきたいなというような思いがあるわけです。

私自身も、平成7年阪神淡路大震災、まさに災害列島我が国日本の地震の活動期にあると。昨年の東北の本当にむごい津波災害を目の当たりにして、とにかく兵庫県下で一番南海地震の津波被害予想がされておる南あわじ市において、しっかりと防災、そういうふうな意識を共有して、とにかく市民の安全・安心のために、とにかく議会としてさまざまな提言なりができればええかなというような思いがあり、今回、今後、今から皆様方と任期の1年間、どこまで重点的にやっていけるかわかりませんが、皆様方のそれぞれの今後の特別委員会の進め方について、しっかりとした議論をしていきたいなというような思いがありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、副市長、何かあれば、報告なり何かあれば。

副市長。

○副市長(川野四朗) おはようございます。

私、初めての委員会でございますので、ここで正月のごあいさつをさせていただこうと思います。明けましておめでとうございます。ことしもどうぞよろしくお願いをしたいと思います。

きょうは新しく設けられました地震・津波対策特別委員会ということでございます。私も、既に県のほうで暫定的な津波高が約2倍になるというようなことを発表されてお

りますので、それに対応していろいろなことをやっていかなければいけないというふうなことで、今鋭意努力をしておるわけでございます。特に、今、予算の編成時期でもございますので、それに対応した新しい年度の予算も編成したいなというふうには思っておるところでございます。委員各位におかれましては、いろいろと調査をしていただきまして、また、適宜、的確に御指導もいただければ、我々としてはそれを生かしていきたいというふうにも思っておりますので、どうかよろしく願いを申し上げます。

○谷口博文委員長 ありがとうございます。

それでは、各委員に今後の進め方についての思いがあれば、意見をちょうだいしたいなというような思いがありますので、どなたか順次お願いできますか。

長船副委員長。

○長船吉博副委員長 今、委員長が言われたとおり、この防災、中央防災会議において、津波高2倍と、そして範囲も大分県、日向灘も含めた中での広範囲というふうな災害が予想されるというふうなことですけども、今、南あわじ市の中で、自主防災組織をたくさんつくっておりますけども、実質的な自主防災組織ではない、まあ、言えば、言葉悪いけども、つくっただけだというのが今の現状だというふうに思います。

そこで、やっぱり自主防災組織の充実を図る、また、それに対しての地域、自治会との話し合いとか、そういうふうなこと、そしてやっぱり大事なのは、この南あわじ市を将来支える子供たち、その子供たち、学校教育の中で、この災害についてのどこまでの啓蒙をしているのかというふうな事柄、そして一番次に大事なのは、やっぱり行政としてこの東海・東南海・南海地震等についての、この規模がアップした中での市の今後の対策をどのようにしていくのか、そこらの一つの協議、そういうのがやっぱり大事なかなというふうな思いがあって、何もかもできるというわけにはいかんだろうけども、何らか皆さんの意見の中で一つに絞って、1年計画、2年計画で目標を定めた中で、委員会として充実した委員会を持っていけるように進めていけばいいのかなという思いでございます。

以上です。

○谷口博文委員長 わかりました。

中村委員。順次各委員の思いを。

○中村三千雄委員 これはやはり何といいましても、常日ごろ、市民が津波に対しての関心をいつも持っておれるようなことをしていかないといかん。だから、今回の三陸であつても、昔からそういうようなところで訓練受けた地域については、被害者も少なくなつたというのは、これ、いつ来るかわからんけども、来たときには、もうそれぞれそうい

うような訓練なり意識というのは十分できておったということでございますので、やっぱり、何としてでもこれは切れることなく、やはり市民に徹底し、そういうふうな中で研修・研さんも重ねながら、やっぱり全体が関心を持つような対策を総合的にとっていくべきではなかろうかと思っております。

これも防災計画の中で、ずっと今さっと目を通しておるわけでございますけれども、要は、私も灘におりますけれども、やっぱり一番灘地域におきましては、県道、一般の人の県道の通行が、やっぱり不特定多数が通りますので、そういうふうなことの対策というやつも、やっぱりどこかで歯どめというか、きちっとしておかなければいけないんじゃないかなという思いがいたしますので、これはもう市民全体のやっぱり問題として、やっぱり我々議会としても積極的に取り組んでいくべき必要があるんじゃないかならうかという思いでございます。

○谷口博文委員長 わかりました。

印部委員。

○印部久信委員 とにかく南あわじ市が発足してもう7年かなるんで、この南あわじ市の場合は防災課という担当課まで置いてやってきておるんですね。それで、今まで防災課から出ている資料もハザードマップとか、ソフト面のことについたら、いろいろなことが考えてできてきておると思うんで、あとは訓練によって、いかにソフト面は充実していくかということであると思うんですね。後は問題はハード面で、南あわじ市は実際そのハード面でどんなようにしていくかという構想があると思うんですね。このたびの新聞見ておりましたが、国は今までのハード面の施設の見直しをかけるというようなことも実際新聞にも載っておりますし、今までの想定をくつがえすようなことでハード面を考えていかんといかんということなんですね。

私ども議会として一番関心事やというのが、ハード面でも限度があるのは十分わかっておるんですが、ハード面は南あわじ市は県・国と連携してここまではやると、これ以上のことはハード面はできない、あとは避難道を使うとか、いわゆるソフト面で対応していくということなんですね。

このたび、今、副市長も言われていましたように、4月、3月にかけての新年度の予算措置をしておるということなんですが、実際その予算措置は全体の中のどの部分に対しての予算措置が行われていくんかということも、やっぱり知らしめてもうて、それで我々委員会もそれに対してのチェックをするということ。それと、一番大事なのは、やっぱりこのハード面の進捗状況というものは、やっぱりこの委員会でチェックしていかんといかんと思うんですね。でないと、やるやると言いながら、予算の関係もあり、いろいろあつて、なかなか計画が進捗していかんということが非常に多いと思うんで、やはり委員会として

その辺をチェックしながら、進捗状況を確認していかなといかんのじゃないかというようなことも思うわけです。いろいろあるんですが、そういうようなこともやっていったらどうかというふうに思っております。

○谷口博文委員長 わかりました。
出田委員。

○出田裕重委員 もちろん皆さんおっしゃられていることは何も皆さん異論はないと思うんですが、こうやってきょうマニュアル作成の手引き改訂ですか、改訂案が出ているんですけど、項目ごとにいろいろあるんですが、当初から総務委員会でやったらいいんじゃないかという声がある中で、この特別委員会が立ち上げられた意味をよくよく考えると、こういう問題はだらだらいつまでも引き伸ばしてやっとなんかいいかんということで、ある程度目標を決めて、こういうマニュアルの策定に議会としてかかわっていくという前提で、項目つぶしながら、長船副委員長言われたように、私はもう教育委員会の人にも来ていただいて、子供のことはどうなっているかというような集中審議がある日もあって当然やと思いますし、目標決めて、ゴール決めて、議会の意見をまとめていくという進め方にしていただきたいなと思うのと、総務委員会と並行してではなくて、総務委員会の皆様方にはおしかりをいただくかもわかりませんが、その上前をいくようなスピード感のある審議をしていくべきかなという思いでおります。委員長にはちょっと負担をかけるかもわかりませんが、できるだけ回数も多く開いていただいて、1年なら1年ということで区切りを切りながら、やっていっていったらいいんじゃないかなと思っています。そんなもんです。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 私は、特別委員会持つべきやというようなことを代表で説明をさせてもうたわけですが、地域のことを言ったら地域エゴ、何か南あわじ市が一本になっておって、阿万のことばかり言うというように言われるかもわかりませんが、私はもともと南あわじが一つになるというのは、地域エゴがやはり年数たって、地域エゴを中心に南あわじ市が一本になっていくということは、私はそう思っております。

それで、確かに総務委員会の所管を侵すというふうなことはありますけども、正直いって、今の現状の、防災課長もきょうは見えてますが、一生懸命やっておられるのはよくわかります。しかしながら、福良のほう、私、はっきりしませんが、阿万の現状を見ますと、避難路、避難場所、これは全く進んでないと言っても私決して過言ではないと思う。それで、この前も新聞に出てましたけども、例えば想定外、10メートル以上やいうたら、もう阿万地域は全滅ですわね。ああいうような危機状態であって、議会がその専門の委員会

も持たないでやること自体が私はナンセンスやと。

かなり反発を食らいましたが、当然、専門の学者も非常にシビアな意見を出しておりますし、阿万の特に地域の皆さんも非常に最近関心を持っております。そのようなことで、まず、市民への啓発、議会の我々の心構えということ、そして、執行部のしりをたたくいうたら失礼ですけども、やはりそういう意味で提示したわけなんです。

そういうことで、やはり先ほど印部委員も言われましたけども、ハード面というのは、これはいろいろハードでもやり方があると思うんですが、私はとてもハード面では無理やなど。まずソフト面、逃げる、避難道、逃げる場所、特に阿万なんか、課長そうでしょう、今も全然そういうことがゼロといってもいいような状況でしょう。決まっている地域というのは、二、三ありますけど、そういう中で、やはり、もう少し内陸の議員さん方、こんな言うたらいかんけども、はっきり言って人ごとみたいなもので、三原町やそこらやったら、それはもう、広田のほうにしたってね。

そういうようなことで、やはりもう少し、阿万なんか、もうほんまに今の状況で来たら全滅というか、もうこれはひどい状況になると思うんやな。そんなんで、やっぱりそういう避難道路を徹底して早く、設計しよるや何やいうの聞くけども、何にも前へいってないように思うんやな。そういうことをやはり急いでやっていただくというようなこともあって、私はそういう委員会を立ち上げるべきやというふうに考えたわけでありまして、幸いこういう形になったわけです。

そういうことで、いろいろなところへ、奥尻も行ってきたし、岩手の田老町も行ってきましたし、また海南市では今初めて浮上式の、もう今本格的にその工事がもう始まっています。この前も海南の議長とお会いして、そういう話、聞いたんですが、今回の地震、震災でまた予算が削減されるというようなことを言ってましたけども、そういうふうなことで、やっぱりこういう、もう特に東南海・南海地震ということがまともに南あわじ市が災害を受けるんで、本当に危機感を持ってやってほしいなという思いです。以上です。

○谷口博文委員長 ありがとうございます。

森上委員。

○森上祐治委員 皆さん方の今、意見聞いていて、みんななるほどなと思って、私何も頭に新たに思い浮かぶことが余りないんですが、今、阿部委員がおっしゃったように、この南あわじというのは、兵庫県下で来るべき東海・東南海地震、それから南海地震、また豊後水道の4連動云々と言われる中で、一番兵庫県下では直撃を受ける可能性のある地域でありまして、それだけに私も従来何らかの形で、今、危機感ということをおっしゃってましたけども、やっぱり議会の危機感を前面に出していって動いていくという必要を感じております。

そういうことで、これからどういうふうに進めていくんかということについては、私自身、個人的なものは、この今の地震とか巨大津波云々についての情報は、学者とかマスコミとか錯綜しております。きのうも、二、三日前も、大阪湾でもこんなん起こるぞというようなことが出ていまして、できたら、できるだけ早い時期に、やはり我々委員としては、情報をできるだけ共有していくという観点で、専門家、だれかであるとか、いわゆるコンパクトに今のこのような情報を我々自身が整理できるような観点で、ちょっとレクチャーしていただいて、勉強会みたいなものを委員の中でできたらなというふうに思いますし、こういう今、大分県議会のこういう報告出ましたけども、やっぱりほかの委員会も適宜やっている視察ですね、それもできるだけ早く一遍やって、我々の動きの方向づけの足しにしていっていいなというふうには思っています。

それから、最初に長船委員おっしゃっていたように、自主防災組織云々のことについて、これはもう非常に大事なことでありまして、その中でも私常々思うのは、子供ですね、これは学校教育では、防災教育という観点が出てきたのはごく最近であります、しかし、それまでは学校では避難訓練であるとか、主に火災訓練でやったんですね。防災訓練、どのようにやっていくかというのは、学校は今一生懸命やっていますが、地域での自主防災、あの訓練には、子供は余り来てないですよ。それは学校におるときは先生方はいろいろ、差配できるんだろうけども、あれは昼間だけとは限らへん。夜とか休みの日とか、いつ何どき起きるやわからんので、大事なことは常々子供にも、いかに逃げるかとか、そういう行動の仕方を具体的に植えつけていく必要があるということで、その辺の自主防災組織での活動の内容の充実、子供に視点を据えた、そういうふうに思っています。以上でございます。

○谷口博文委員長 わかりました。

久米委員。

○久米啓右委員 今後の進め方ということですが、皆さんの言われたとおりなんですけど、私、二つ大きな項目を頭の中に描いています。一つは、委員会と、あるいは行政として、目標をどういうところに置くか、具体的な目標をはっきりと定める。例えば成果物ができると思うんですが、どういう成果物、そして、その成果物に基づいて、訓練の実施の方法、あるいはそれをどうして継続していくかというようなことが一つ。その設定に対してのスケジュール化をせなあかんなど。それはスピードアップを目標として、できるだけ早い段階でやっていく。つまり目標値の設定とスケジュール化ですね。

それともう一つは、各部にまたがってそれぞれ、出田委員も言われてましたけども、特に教育委員会なんか独立してやっておるようなんですけども、そういうのを1カ所で一元化した防災の考え方をまとめるということで、そういう防災に関しては、市として一元化

して取り組むというようなことが必要かというふうに思っております。以上です。

○谷口博文委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 災害対策全般にかかわることですが、今、県が出している資料を見ますと、まず、避難ということがテーマになっていると。私、今、現状、東北の地域のところを見ておりますと、まずは避難であると、これは間違いない。次に復興であるという二つの柱があると思うんですね。この防災計画ということになるわけですが、そこにおる住民の命の安全、財産の保全、あるいは経済的損失の緩和、こういったものが防災計画として考慮されるべき要素であろうと思うんですね。

ということで、この地域防災計画がいつごろできるかというのは、ちょっとわからないわけですが、人的被害、財産的被害、あるいは経済的損失、それぞれに対して、どの程度の被害、最大の被害状況はどうであるのかということと、それに対しての財政出動がどうであるのかということがまずあるわけですね。非常に相対的なものがあるかと思うんです。巨大な防災施設をつくれば被害は少なくなるわけですね。そうすると復興に対してのエネルギーというのも小さくて済む、つまり最初にお金を使っておけば、後での被害復興は小さなお金で済むと。最初のハード整備が小さければ、復興に対する投資というのは非常に大きくなると。非常に相対的なものがあるかと思うんです。

この南あわじ市の地域防災計画としての目標を、先ほど久米さんおっしゃったことよりも、もうちょっと大きな目標ということで、一体どんな目標を持っておるのか。生命、財産、安全、生命や財産の安全確保、経済的損失のマイナスをどう抑えるのという、どんな目標を持つのかということが、まず第一として計画の中に謳われてないといけないと思うわけですが、今、中央防災会議の決定にしましても、県の決定にしましても、もう、ハード的なそういう面はもうやっても切りがないから避難して命を守るという、そこに重きを置いている計画になっておるわけですが、そうした計画に対して、南あわじ市の特別委員会として、どのような目標設定をするのか、防災計画に対する目標設定をどうするのか、これが今、一つは大事なかなと思うんです。

そのあたりの議論が国主導や県主導でやられていることに対して、我々議会がどんな対応、考えを持っていくのかという整理をする必要があるというふうに思っております。国がどう言おうが、こうあるべきだという提案をするのか、国の決定に従ってそれに応じた対応を求めていくのか、二つの立場があると思うんです。どういう立場をとるのかということ、まず決める必要があるというふうに思っておるわけです。それに対して、どのような南あわじ市として計画を持つのか、あるいは国に対して提言を行っていくのか、要望を出していくのか。

国が主導なのか、自治体、議会が主導なのかということの議論がまず要るかなと思って

おります。それに応じて、例えば避難対策であったりとか、ハード整備であったりとかいうことが生まれてくるんじゃないのかということを思っておりますので、そのあたりの目標設定、あるいは特別委員会としてどこにいくのかということが、まず大きく分かれるんじゃないかなと思っておりますので、そういう議論がされれば、おのずから次に出てくるのは、具体的に出てくるのではないのかなということを思っております。

だから、議会としての立場ね、これぐらいでええだろうというんじゃなくて、やっぱり絶対的な目標、絶対的な理想というのを描くべきじゃないのかということを思っておりますので、そういう議論ができればと思います。以上です。

○谷口博文委員長 わかりました。総体的に皆様方の御意見を拝聴したら、危機管理意識をしっかりと持っていておるなということが十分理解できますんで、先ほどそれぞれ各委員から提言ですと、自主防災の充実を図れであるとか、やはり住民の意識、ソフト面、ハード事業の見直しであったりとか、さまざまなこと、意見言うとなねんけど、要は、執行部のほうにお尋ねをするわけですが、地域防災計画の見直しの進捗というか、そのあたりは、今の状況はどういう状況下にあるんでしょうか。

防災課長。

○防災課長（松下良卓） 市の防災計画の見直しにつきましては、今お手元に、兵庫県が昨年の１２月２０日にこういう防災計画の関連するマニュアルの手引きの改訂というようなことで、県が委嘱している委員さん方で意見をいただいて、今、またそれを修正しているというような形になってきます。市としても、市独自でやる方法と、それからある程度国の計画が決まって、それがまた県におりてきて、県がまた自分の県に合ったような形に修正をします。それを今度は各市町村に流れてくるという流れになっております。今のところは、こういう防災計画の南あわじ市の地域防災計画を変えるのは、ちょっと早い時期かなというふうには思ってます。というのは、この防災計画の中には、今でも現在の防災計画の中にはいろんな各種行政機関、また市の対策の考え方というのは、大まかには変わっておりません。国のほうが昨年の１２月下旬に国の防災計画をどのようにするかというような会議をしております。

今、南あわじ市の地域防災計画の中には地震対策編というのがあります。今度国のほうが、地震対策編を新たにその中にある津波の部分と、新たに津波災害対策編というのを新たにこしらえる予定でおります、最終的に国は２５年中に国の防災計画を改正するというような流れで、今、直近の情報ではそのようななっていますので、若干、国がそういうような形になっていますので、県におりてきて、県からまた市におりてくるというような形になります。市の地域防災計画が全面的に変えるという形になるのは、それ以降になる可能性は高く今のところなっております。

以上です。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 聞きよったら、そんな悠長というか、国とか県とか言わんと、我々実質にはそういう兵庫県で南あわじ、特に阿万それから福良、西淡、その辺の太平洋側が危機にさらされとんのや。そやから、それはハード面やいうこと、なかなかできへんと思うねん、国の指針や。要は逃げ道と逃げる場所をまず徹底してそれをしていくと、そういうことをやっていかなんだら、そんな国の予算がどないや、こない、そうでしょう、生命と財産、これは市が守っていくのは当たり前の話であって、我々言いよるのは、例えば、課長、阿万で明確にそういうこと進んでいますか。全然進んでないでしょう。これは計画はしよっても、まさに悠長な形でいきよるやないか。

それは自分ら皆、内陸におったもんは、何じゃそなん関係ないみたいに思っとるか知らんけどやな、阿万とか福良、現実には30年に70%の確率で来ると言いよるねんから、もっと逃げ道と、それと逃げる場所、例えば阿万ではなちゃんとできてますか、それ。そんな国の予算とか、そんなまた国の予算もうて大きな施設をハードこしらえて、そんな夢みたいなことを言うたって、そんなもん、国やこと、今の震災の対応見たらようわかるでしょう。赤十字の寄附金にしたって、何もやってないですよ、はっきり言って。我々は我々身近な自治体で、我々の命守っていく、こんなん当たり前の話で、逃げ道と逃げる場所を徹底してやると、それもできんとやな、その上のこと何できるんで、課長どない思いますか。そんな大きなふろしき膨れてやったって、そんなもん、そのために委員会こしらえとるのや。総務だけではそこまで、今まで全然いつてなかったんや、はっきり言って。

○谷口博文委員長 課長ね、阿万地域は当初、最初の県の発表時より、阿万地域は5.8メートル高と、福良地域が5.3メートルの津波高が来ると。到達時間も40分とか38分とかいうような段階で、南海地震の南海プレートが動いた段階で、阿万地域が5.8メートル来るというような、その数値は実際、今の防災課のほうのあれでは2倍とかいうような数値が、あれは正式な発表なんですか。

阿部委員。

○阿部計一委員 ちょっと、委員長さん、まだ話が。

○谷口博文委員長 その後また聞きますんで。
防災課長。

○防災課長（松下良卓） 当初の5.8とか福良の5.3というのは、国の中央防災会議からのデータをいただいて兵庫県とかで正式に発表しております。今現在、2倍想定というのは、あくまでも暫定でございます。それも暫定は兵庫県が学者とか専門家の方々の意見を聞いて、マグニチュード9の地震があれば、どれぐらいの津波高になるだろうかという国の結果を待ってては、なかなか前に県の対策も進まないというようなことで、兵庫県が暫定的に2倍想定をされたということで、今度、今後また国の正式な結果が出たら、また改正はされるというふうに思います。

○谷口博文委員長 ほな、阿部委員の阿万地区の避難路についての、その辺の整備の状況というか、現状について。
防災課長。

○防災課長（松下良卓） 阿万地区は、今現在、吹上地区と西町地区と中西地区、その三つの要望が来ております。吹上地区につきましては、もうほぼ完成をしております。西町地区につきましては、もう1月中には、自治会とか自主防災のほうでコースも選定していただいて、いつでも工事にかかっているというふうには、もう書類上も全部できておりますので、1月中にはかかるというふうには聞いております。中西地区につきましては、今年度、避難路の調査・設計の段階で、新年度になれば、避難路の工事を進めていきたいというような今の現状です。
以上です。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 もう、そういうような生ぬるいというか、中西でもそうやな、早うにうちらでもそなん相談あつとんねんや。けど、何もほんまに危機感というか、悲壮感というか、人ごとみたいな形で進んで、課長、いきよんやないか。

それで例えば、阿万の一番中心で、人の命の値打ちは一緒やけど、やっぱり子供たちの安心・安全、将来を担う、ほな、この間も課長に電話したら十何メートルある、小学校8メートルもないやいうような、こんな状況で、育苗センターへ逃げるか何やいうて、保育所や阿万の子供のことでも、逃げ場所さえはっきりもしとらんというような状況で、それは地震や津波がいつ起きるやわからんねんけども、やっぱり、それは何かもう吹上なんか、今言うたって、そなんもん前のときからでもできとったし、今回ちょっとそれをフォローしたというだけの話でやで、そなん何の心配もないと思う。

吹上でもただ、あそこ1カ所じゃないわな。例えば、私ごとになるけど、私とこなんか、もう近くの「おぐら」のほうにも逃げなんたら、阿万でそんな行く、何もないと思うし、

それはそれぞれ皆しとるけども、やっぱりそういうふうな学校のことをやるんだったら、きょう3人お見えになってますけどね、ほな、学校、例えば建設、農林振興とか、保育所とか、やっぱり松下課長一人で、そんなんなかなかできへんと思うで。やっぱり執行部のほうの対応についても、委員長、何か考えてもらわなんたら。何せ早いことな、早いことできるはずよ。そんな、何かお役所仕事でやっておる。それから阿万のほうの中西の話でも、もう、話、いつになつとるのや、何じゃ進んどうへんのや、はっきり言うて。どないで。

○谷口博文委員長　阿部委員ね、きょうは今後の委員会の進め方ということで、当然、避難路の整備というか、またその辺、重点的な審査というか、こういうまた、そのときにまた今の話はやっていただいて、要は、今回第1回目ということなんで、今からさまざま避難路でハード事業であつたり、ソフト事業であつたりということは、当然、十分議論をして提言していきたいと思っておりますが、今回第1回目ということで、きょうは目標を設定して、今後、この委員会をどういう方向で順次やっていくかというような、きょうはそういうような趣旨の第1回目の会議なんで。

阿部委員。

○阿部計一委員　これはそういう関連で言うたんやけども、要はそない大きなハード、施設、どうやこうや言わんでなしに、まず、国のほうも逃げらなしゃあない言いよるねん。逃げる道と逃げる場所をよ、はっきりと一つの目標を決めてやるというふうな形でいかなんたら、国の予算がついたら、どないやこないやいうて、そんな悠長な話はできへんっていうことを言いよる。そやから、まず細かいというか、一番大事なことからやっていく。それで内陸のほうやったって関係ないや言うたって、地震があつて津波があるねんから、やっぱりそんなことをまずやっていかなんたら、それは長船委員言いよった自主防災も大事やけども、まず来たら逃げるといふ、この道、それと場所、まずそれがまだ徹底してないよって、まずその辺から私は徹底してやっていきたいと。

○谷口博文委員長　わかりました。

蛭子委員。

○蛭子智彦委員　先ほどの話の中で、国待ち、県待ちというような話もあつたわけですが、それはやっぱり考え改めていただかないといけない、まず第1点です。それともう一つは、いろんな避難路あるいは自主防災組織、ハード整備、目の前の直近の話のさばきを議論するのであれば、この委員会としての目標は小さいものになってしまうと思うんです。やはりもっと大きな目標を持って、その中で直近のものをさばくという、そういう大きな

目標がないと、計画も当然目の前、さばきのようなことになってくると、その場その場の話に終わってしまうというふうに思うんですね。ですから、課題は多岐にわたる課題はあると思うんです。でも、地震・津波対策の根幹の目標は何なのかということを、再度明確に議論しておくことが大事じゃないかということに私は思っております。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 今、皆さんの意見聞いておった中で、やっぱり目標として南あわじ市は防災対策について、一人の死者も出さないというような一つのキャッチフレーズとして、この委員会、今後、目標、大きな、これ大きな、ほんまに大きな目標やと思う、一人も出さへんというのは。仮に今、不可能かもわからんねんけども、そういうふうな目標を掲げた中での防災対策を進めていくべきかというふうには思う。

○谷口博文委員長 先ほど、長船副委員長は津波死者ゼロを目標にすべきであるというような、本当に市民の安全最優先したような目標を設定すべきだという意見がありますが、当然、その辺の思いは全委員がお持ちだと思うんですけど、ほかに何かあります。
久米委員。

○久米啓右委員 今の目標に関してですけども、大きな目標というのは、恐らく皆さん頭の中に描いておられると思うんですけども、やはり分けて、やっぱり短期的にすぐに手をつけないといけないような項目もあるんですね。やはり、すぐ避難路が欲しいとか、そういうものと大きなものと分けて考えていって議論して取り組んでいったほうが、進めやすいんじゃないかというふうに思います。

○谷口博文委員長 大体、総体的な意見としては、やはり避難路の整備を重点的に当初やっていくべきやというような意見が多いのかなというような思いがあるんですけど、そういう避難路整備いうか、ハード事業的なことを、やはり各地域の現状に応じたような情報収集というか、そのあたりをやって提言していくべきだというような意見を最優先してやらせてもうてよろしいんでしょうかね。
森上委員。

○森上祐治委員 それで結構だと思うんです。もう一つそれに加えて、避難経路、避難場所云々とプラスして、先ほど来出ているように、自主防災組織の具体的な動き方やな。特に初動の動きについて、何人もの委員さんおっしゃってましたけども、組織はできたけども、実際の活動をしていない。どうも市内でも進んだところ、福良とか若干の自治会の

一部の動き見てたら、やはり例えば独居老人であるとか、いわゆる災害要援護者、町内会で具体的に話しして、だれがどう、昼間だったらどうかって、夜だったらどうかというような、そういう話が進んでおるんですよ。そういうのもやっぱり町内会に任せておいたら、なかなか動きが鈍いから、その辺の指導を行政でやっぱりきめ細かな動きもしてもらいたいと。

そういう観点で、要はさっき出たように、一人の犠牲者も出さないという大きな観点から、優先順位をですね、何がまず今やっていかなあかんのかと、それを明確にして具体的に取り組んでいけたらと思います。

○谷口博文委員長 防災課にお尋ねするねんけど、この津波の被害予想されるエリアの自主防災組織の立ち上げというのは、もうすべてできておるわけですか。灘、沼島、阿万、福良、西淡のほうの地域の自主防災組織というのは、もう立ち上がっておるんですか。

防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今、179の自治会の自主防災組織が設立をされております。それで、今、委員長申されました沿岸部のところは、今ちょっと手元に資料はないんですけど、ほとんどの自治会が自主防災組織を立ち上げてくれているというふうに理解しております。

○谷口博文委員長 ほな、各委員からの自主防災の充実を図るであるとか、自主防災のことについて、今の実際、自主防災組織の訓練とかそのあたりの把握というのは、どのようにされておられますか。

防災課長。

○防災課長（松下良卓） 自主防災組織の中で、南あわじ市は8割補助の事業をしておりますので、そういう訓練なり学習なりをさせていただいている自主防災会のほうには、どういう訓練をしているかというような資料もあります。特に自主防災の中で、学習会をしたいんやとか、AEDを使った救命講習をしたいんやというような自治会からの要請、自治会、また自主防災会からの要請が来た場合は、防災課のほうで、防災課の職員が講師となって研修に参加させていただいているというような実態です。以上です。

○谷口博文委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 いろいろ意見が出ておると思うんですが、二つ出たと思うんですけども、避難路中心、避難路の対策を中心に議論せえということが一つと、それと、長期目標、

中期、短期の目標、それぞれ分けて整理すべきだという話とあったと思うんですが、そのあたりの議論もちょっと委員会でやったらどうですか。

避難路の整備というのは非常に短期的な目標で、やっぱり一気にやらなあかん。自主防災の問題にしてもそれは一気にやらなあかん問題ということは当然あると思うんですね。ですから、この委員会の目標というのは、やはり長船さんおっしゃったみたいに、津波の死者、地震の死者をゼロにするという大きな目標、これはこれまでも言われてきたことやったと思うんです。それと、やはり被害を小さくしておくということは、復興に向かっていきやすいわけですね。そのためにはハード的な整備だって当然必要になってくると思います。それは防潮堤であつたり、あるいは津波防波堤であつたりとか、こういう整備、当然必要になってくる。それは大きなものだからほっとけということじゃないと思うんですね。

だから、そういう生命、財産、安全の被害をゼロにするという目標を掲げながら、短期的にはこれをやろう、中期的にはこれをやろう、もっと長期には国がかりでやろうという、こういう先ほどの死亡がゼロと、人的被害ゼロと、それから生命、財産に対して、財産ですね、財産被害、家屋被害ゼロにする。ゼロにできなければ、復興に向かっていろんな保険制度がある、そういうのを使ったり、いろんなその他もろもろの話が出てくるだろうと。長期としては、やっぱりハード的な整備をやりながら、マグニチュード9.0に対応するもの、あるいは8.4に対応するもの、8に対応するもの、いろんな考え方があろうかと思うんですけども、そういう大きな目標はやはり死者ゼロであつたり、財産損失ゼロであつたり、経済復興に対して100日で立ち直れるとか、こんなような設定を置いた計画づくりに向かって、ゴールはそこであると。ただ、そこへ行くまでの間に短期的・中期的な計画も当然出てくるという目標立てというのは整理しておくということは、まず、きょうの目的じゃないかと思うんですけど、その点いかがですか。

○谷口博文委員長 今回、最初の第1回目で今後の進め方ということで、執行部のほうも部長、防災課長なんですけども、当然、学校の避難マニュアルの見直しであつたら、学校教育課であつたり、要援護者等になれば、やはり健康福祉のほうであつたりとか、さまざまな部署にも関連してくることで、説明員というか、執行部の参加も今後の進め方、テーマを絞っていった段階で、そういうふうな森上委員がおっしゃっておったように、正しい情報収集、さまざまな県なり国なりの行政からの情報収集も重要だというようなお話もあつたんで、今後、先ほど今、蛭子委員がおっしゃっておったように、最終目標をどこへ持っていくんだというようなお話だったと思うんですけど、やはり当委員会としては、市民の安全というか、津波死者ゼロはもうゼロにするんやというような大きな目標のもと、今後避難路であつたり、さまざまなテーマを絞った上で、要は執行部の説明員というか、来ていただく方々に今後やっていきたいなというような思いがあります。

ちょっと一遍、暫時休憩して、１０分ほどちょっと休憩して、また最終的にきょうのやつを決めたいと思いますので、暫時休憩で１０分間休憩します。

(休憩 午前１０時５０分)

(再開 午前１１時００分)

○谷口博文委員長 それでは再開いたします。

先ほど来、委員個々からの意見で、印部委員からの御意見で、ハード事業のその辺の進捗であるとか、県なり市なりのハード事業の今後の計画について、どういう計画をお持ちかというようなこともお尋ねがあったわけですが、今の現状で答弁できますか。

総務部長。

○総務部長（渕本幸男） ハード事業については、まずは市としては先ほどから出ております避難路について地元と協議しながら、いろんな要望のあるところについて対応しているというようなことで、もうすぐに地元でやっていけるいう部分については、地元へのものもありますし、また、いろいろと調査・設計が必要な部分については調査・設計をまず進めていくというようなことで、今は福良、そして阿万、湊、そういう部分でそれらを進めております。

それで、やはりそれらの避難路については、やっぱり地元といろいろと協議をして、それで地元の自治会の役員さんのみならず、やはり地元の人たちがいろんな意見を聞きながらというようなこともありますので、その部分については、自主防災会の会議であったり、自治会の会議の中でそんな意見を出して集約しておったものを挙げていただくというようなことでございます。

それで、そういった部分の中で、沼島につきましてもいろいろとまた要望も上がってきております。そこらについて、方法としては直営でやる分と地元でやる分とに分けて進めているという段階です。それで、県のほうにつきましては、今までの事業の継続、そういった部分をまず継続でやっている分をまずやって、その中で新しい部分につきまして、市との協議の中でまた新しい部分が出てくるというようなことになろうと思います。

それで、いろんな大きい事業、事業費にして、いろいろ以前は夢のようなというような、先ほども出ておりましたが、自動の開閉式の防潮堤とか、そういうような分も今まで夢的な部分がありました。そんなんも海南市で実際に施工が始まるというようなこともございますので、それらにつきましても、市長なりのほうから国や県のほうへ、いろいろと事あるたびにつないでいただいておりますので、これは実現可能か不可能かという部分がありますが、海南市の場合は、この採択については、やはり被害想定、結構海南市であります

とコンビナート関係があつたりする中で、それをする事によって5,000億円ほどの経済効果というか、そういうような部分を試算の中で出たりしております。

そういういろんなクリアする部分が結構ありまして、そこら辺と、それともう一つ技術的な部分も、今、近畿地方の地方局のほうでいろいろ実験やったり、いろいろもうしておりますんで、そこら辺も今後もそういった部分の大きな部分について要望もしていかないかんというようなことで、今まだそういった大きな事業については具体化はしておりませんが、そういった状況で今いろいろと話をさせていただいておるといような状況でございます。

○谷口博文委員長 印部委員。

○印部久信委員 とにかくこの今もう、このたびの3.11の災害から避難、避難路ということがやかましい言われて、南あわじ市もそれに取り組んでおると。それで、結局その避難路の場合はハード事業になっていくんですが、もう、とにかく今細かいことよりも、きょうは具体的に、今、そうしたら今、部長が言われたように、阿万、福良、湊で避難路、避難場所において具体化してきておる地域が実際あるんですか。例えば、湊なら避難場所はここであつて、避難路はこうであると。将来的にそういうようなことが仮に思われたら、避難路を新たに取りつける場合には、用地を買収してまで避難路を取りつけていかんといかんという、特に場所もあると思うんですが、今、南あわじ市の全体の中で具体的にこういう、実際こういう動きがなされているというような地区はありますか、具体例。

○谷口博文委員長 総務部長。

○総務部長（瀧本幸男） 先ほども課長のほうから具体的な部分もあつたんですけど、今は、やはり高台へというようなことで、徒歩を中心とした避難路の整備というようなことで、先ほどもありましたように、阿万の吹上ですと、山道を重機で突いて、それで上がれるような形で、とりあえずは整備させていただいたというようなことや、あと、それに伴って避難路だけではやっぱり十分でないというようなことで、夜の場合もありますし、そこら辺の明かりの関係、街灯の関係ですね、そういった部分とか、必要に応じて、また手すりとか、そういったいろんな対応は必要やと思うんですけど、とりあえずは、そういった形で阿万の場合ですと先ほどから出ております吹上、それと西町、それと中西、それらについて具体的に出ていると。

それで、湊につきましても、湊の小学校へ上がるルート、そういった部分の避難路、そして福良の場合は、福良の場合は今までも避難路の整備、結構4カ所、5カ所やっております。そういった部分の中で、今回新たにもう1カ所、福良の市街地の中では、西のほう

になるんですけど、そういった部分で今調査・設計にかかっておるというような状況です。

それと、そうでない、ある程度規格的に幅員のある部分、車でもという、日常は車で、いざというときには徒歩を中心にしていただきたいんですけど、そういうような、都市防災の国の補助金をいただいてする事業についても、今現在2カ所、丸山と、それと福良で、そういった規格には合うた道路の整備もやっております。それと、先ほど申しました沼島のほうで、今までの倍になりましたんで、今までも避難路の整備しておるんですけど、それでは十分でない、もう一つ高台へというような部分の延長になります、そういった要望も来ておりますので、それらについても対応していきたいというように思っております。

○谷口博文委員長 印部委員。

○印部久信委員 それは当然今言われた地域でやっていることは、当然、地域の自主防災組織あるいは自治会との協議の上でのことで進んでおるわけですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○谷口博文委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今の印部委員の質問ですが、一つの情報提供なんですけども、実は3日前に私たちの町内会、阿万の上町なんですけど、その地域は浜から大体2キロほど奥まったところなんですけども、最近のいろいろな情報では、三陸の状況を見よったら非常に心配やなということで、このたび町内会の執行部のほうが、どこで資料をとったんや知らんけども、町内会長が市役所の職員、たまたま職員だったんで情報はとりやすかったんかもしれなけども、大体今までの5.8メートルぐらいの津波が来た場合は、ここまでぐらいやられる、想定されると。2倍枠だったら、このぐらいやと、3倍だったらこのぐらいやというのは、具体的にここ線引きして、阿万全体のことを出してくれたんよ。やっぱり我々参加しとったんやけど、これはそうやなということで、それに基づいて、多分あれ2倍ぐらいの観点からの避難場所だけでも、ある程度の三つか四つ、隣保ごとにかたまって避難場所を指定してくれてありましたわ。避難経路まで私今ちょっと記憶ないんやけども、どないなとったんかと、いろいろ表にして書いてあったから、多分、避難経路のことも書かれてあったんだろうと思うんやけども、あの辺はやっぱり、できたらそういうマップとかそういうのを、一時避難の場所やな、つくれるような動きを早急にしていく必要があるんじゃないかと。あの辺は何か町内会の執行部と、何かそういう連絡があったんですか。

○谷口博文委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） 一時避難する場所、そして、それに通ずる避難経路、そういった部分は、当然、集落の中でも単位、単位で違ってくるというように思います。そういった部分の避難マニュアルについて、地元と話をしながら、こしらえていこうというように、今進んでおるんですけど、少し補正予算も置いていただきながら、とりかかっておったんですけど、なかなかこういった形でというものを、県の人と防災未来センターのそこら辺との協議やいろんな部分がありまして、今回、1月28日に福良の小学校の児童の体験防災の教育の一環で、そこが全面的に来ていただいて、そういった避難マニュアルをこしらえていこうと、これは子供さんを中心と地域の方々とでやっていただく、そういったものがあります。それをきっかけに広げていこうかなというように思っております。そういったことをこれからしていきます。そういう部分については、それぞれの自治会のほうへはいろんな会のおときにはおつなぎはさせていただいておるんですけど、実際に取りかかりはまだできていけませんので、今後やっていきたいというふうに思っております。

○谷口博文委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 私、今、いろいろな話の中思いますのは、津波の死者ゼロにというよりも、やっぱり地震・津波死者ゼロということは、やっぱり協議の話の中では、内陸部は津波関係ないんやというような話もちらっと出ておったんですが、私はやはり地震で火災が起きても死者でございますね、ゼロではないんですね。

それだからやはりこの機会に、津波対策はもちろんでございますけれども、内陸部における地震の火災のときにどうするかというようなこともやっぱり考えていかなければ、ただ、津波、津波、防災、防災ということでは、これは内陸部は関係なしに、内陸部の人が昼間、もし海岸等々行っておった場合どう対応するかということやから、市全体の津波、地震としての考え方としては、やはり私は、津波地域だから、その地域だから、内陸部は関係なしに、市民がやはり地震、津波にそういうふうな対策の意識を共有すること自体に、私は委員会としても、やっぱりそこらも配慮して、今後、協議もし、検討もしていつて、本当に地震・津波死亡ゼロやという形をやっぱり大もとに掲げていかなければ、余りにもこの委員会ができて、津波は来て、想定外だというよりも、私はやっぱり、広田であっても三原地区であっても地震が来たときに、要は朝の7時、8時ごろで御飯炊きよるときに、やはりそのときどうするかと、やはりガスを切ったり、すべて火も切ってやっぱりやるという、そういうふうなことを私はやっぱりこの委員会として忘れてはならんのかなということ 생각합니다。

今後そういうふうな話の中には、そこらも含めて地震、津波は市民全員の共通認識と意

識を持って共有するんだという形のことをやっぱり執行部も、この委員会も津波、津波でなしに、そういうような場合には、事あるごとに市の大きな会合とかには、常にそういうようなことを徹底して、どこにおっても地震が来たら市民がどう動くんだという意識を常に持たすという、これはもうハード面でございますけれども、そこらも忘れてはならないというふうなことでございますので、今後もそういうような進め方、なるべくはそういうようなこともひとつ検討していただきたいなと、私は思います。以上です。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 今、総務部長、1月28日、福良の小学校の児童と地域の方々、この地域の方々というのは、どういう方を対象にしとるのか、自治会から何名要請とか、いや、自主防災組織の会長、副会長、三役もしくはその役員の方々、そこらどういうふうに地域の人たち。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 福良地域の自主防災の方々に、小学生の方々が訓練開始ですぐに小学校へ行くんじゃないしに、自分たちの地域は一時避難場所はここですよという、まずそこへ行く、行ってから小学校へ行くというようなことの計画でおりまして、その一時避難場所でちょっと点呼とったりとかするお手伝いを学校の先生方と一緒にしていただくということで、今、役割分担も学校のほうでいろいろしていただいております。以上です。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 今、自主防災組織の方々というふうなことを言ってますけど、自主防災組織はつくったときに、各個々の自主防災組織の役員編成を市は提出せよと言って提出させてますよね。提出して、その役員編成見て、その役員の方々の平均年齢なんか出したことあります。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 役員の方の平均年齢は出したことないです。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長　　大体六十数歳ですよ、本当に。それで、その方々、これは頑張っ
てやってくれるだろうと思うけども、今、自主防災に一番大事なのは、防災のリーダーと
して、そのリーダーがどれだけ防災組織を把握して、迅速に各隣保単位で、全員隣保単位
で避難をできるか、早急にできるか、またその要援護者は何人おるか、それによって、や
はりそのときに車いすなりなんなりが必要なかどうか、そこらも大事やし、それと、や
はり地域の近くにでも、5階、6階ぐらいの大きな建物があれば、時間がなければそこへ
連れていきなり、そういうようなことも含めた中で、やっぱりまだまだ自主防災組織が全
くいつも僕が言いよることやけども、できてない。そんな現状の中で、本当にこれ、もっ
ともっと現実化した防災訓練が必要やと思うんやけどな。

今、自主防災組織の点呼とつてもうてって、そんなはっきり言えば悠長やな。それはも
う行政がやりましたって言うて、何か言いわけ程度のようなものに僕らは見えるんよな。
そやから、もっと僕ら今後、委員長、実際地域の自治会長さんなんかに来てもうて、ほん
で、この人たち、あんたとこの自主防災組織どうなんですか、現実はどうなんですかと、
じゃあ、あなたたちの自主防災組織、充実するために、何が要望するんですかと、そうい
うことまでも僕らは踏み込んでいってもええと思うんやな。

それと、総務部長に苦言を言いたい。夢のようなハード対策、夢や言わんといてほしい。
なせば成る、なさねばならぬ何事も。夢のような言われたら、おれはもうつらいわ。夢や
言うたら、浪速の夢のまた夢、太閤さんみたいなこと言われたら、よわる。

○谷口博文委員長　　総務部長。

○総務部長（渕本幸男）　　先ほど申しましたのは、以前はそういうことであったという
ようなことです。今は現実化しておりますので。

○谷口博文委員長　　出田委員。

○出田裕重委員　　もう、きょうはここまで言わんでもええんかなと思っておるんですけ
ど、さっき森上委員から地域の町内会の人が、たまたま役場の職員だって、そういう地図、
海拔の表示の地図を入手されたと言われましたけども、僕これこそが自主的な動きやと思
うんですよね。そういう動きがあったときに、いや1月28日終わってから、また一斉に
やりますんでじゃなしに、やっぱりそういう動きをし始めた人を、行政が後押ししていく、
たまたま役場の職員であったかもわかりませんが、いつも役場の職員が地域、地域出身
で、全員が防災意識高めるような公僕として動いてくれたらありがたいなって言ってるの
に、そういう動きがあったときに、またまたそういう人らを、いやいや、1月28日終わっ
てからにしてくれいうような、そういう画一的な行政の動きが、やっぱりそういう自主的

な人らの動きをとめとんのかたと、ここは感覚的にそういうふうと思うんです。

これは言い過ぎかも知れませんが、やっぱりわかりやすく言えば、阿万が9地区あって、9地区から出ている職員さんがおって、そういう人は今、全員地図も配って、何かこの地域の自主的な動きの火つけ役になっていただくみたいな、そういうのをやっていくのが僕は行政の仕事じゃないかなと、もう全員に役場の職員全員にその地域守ってこいやいうのは無理な話やけども、やっぱりそういう機運を高めるためにも、ちょうどそういう地域、地域別で採用しているところもあるんでしょう。そういうのをやっぱりこういうときに使わんと、ここは意味がないと思うので、防災リーダー講習とかも行ってきましたけども、何かリーダーを育てているというよりも、いろんな知識を注入して、今後頑張ってくださいねとかいうエールを送られるんですけども、その後、防災士取った資格の人が地域に帰って、役場としたら名簿を持っているはずなんで、やっぱりそういう人らにもっとリーダー的な動きの指示をすとか支援をすとか、やっぱりそういう自主的な流れをやっぱりもっともっと加速させていくような取り組みをしていただきたいなと、今の森上委員の話を聞いて、そない思いますけども、どないなんですか。役場の職員としては、まずどない思ってますか。全職員が防災対策とかいうてきれいごと言うじゃないですか、本会議場で。実際そなんやってないでしょう、皆、氣遣うて、職員同士。

○谷口博文委員長 総務部長。

○総務部長（淵本幸男） 以前にも自主防災組織立ち上げのときに、地元職員というかが回って、自治会長さんとかへ行ってお願いしたりいうことで、ある程度、今、179の自治会が一応組織を設置していただいたというようなことです。そういうことで、当然、市の職員もいろんな形の中で、地域のリーダーとして今後も避難マニュアル、そういった部分の中でもいろいろと活躍していただきたいないうような思いの中で、いろいろとまた職員のほうにも情報提供しながら進めていきたいなと思っております。

○谷口博文委員長 出田委員。

○出田裕重委員 これ以上言いませんけど、1月28日が終われば、各市の職員にそういう地図を渡すとか、町内会の人に渡すとか、防災マップじゃないですよ、海拔が表示されたそういう地区の地図を市から渡して行って、こういうのできたから、また、こういうの地域で活用してくださいみたいな動きをするんですか。

○谷口博文委員長 総務部長。

○総務部長（渕本幸男） 具体的な動きの中でこういったことになってますよということで、地元に入ってリーダー的にやっていただきたいというようなお願いをしていきたいというように思っています。それで、今ちょっと考えておりますのは、今のそれぞれの集会所であったり、いろいろな公共施設であったり、目立つようなところについては、標高を示す表示板を設置、今取りかかっております。まだ今設置はできておりませんが、今年度中にそれを済ませたいというふうに思っています。それで、地図上で示す標高について、今、県が暫定的に2倍ということで数字が出ておりますんで、これはあくまでもいろんな条件を加味しないで、一応、倍というような部分の中で、例えば、福良でありますと、今まで5.3であったものが、今度は9.85メートルになると。それで、9.85メートルの境界、標高のところを示して、それよりも海拔が低いところは浸水しますよというような地図を今後作成していきたいなというように思っています。それらについても、職員のほうへもそこら辺の部分をお渡ししながら、地元での対応、そんな分もお願いしていきたいなというふうに思っております。

○谷口博文委員長 出田委員。

○出田裕重委員 出せる書類があれば、僕はもうどんどん地域に出してほしいんです。それがないと、やっぱり議論のきっかけがないんですよ。ただ、これからの防災対策でないしというためだけに集まってしても、会が始まったらどないした、どないした、どないした、どないしたみたいな話になるので、やっぱりそういう議論を誘発させるような書類があるのであれば、僕は別に先駆けてやっても、ちょっと行政としてはこんな情報出すのはどうかなというような感覚でとめるときがあると思うんですけど、僕はそんなん出してもうてええと思えますんで、僕の個人的な意見ですけど。そんなところですよ。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 先ほど委員長も言ったように、きょうは方向性を決めると言いよった。今また個人的な意見が出よるねんけど、今、出田委員が言いよったけど、私は上町のほうはたまたま総代と職員と重なっておったというようなことで、これ職員にまたそういう責任を持たせて、そういうことをやるんやったら、それは出田君は出田君の意見であって、私どもはそれはいかなものかなと思います。自主防災組織というのは、それぞれ自主的にこしらえてやっていきよるねんから。それと、もうさっきから委員長言いよるように、もうそういう国の方針とか何か夢物語みたいなことを目標にやるのか、私はほんまこんな思いで、まず命を守る、先ほど中村委員も言うたように、それは津波というのは地震があって津波が来るねんから、これは常識的にだれしもわかっていることやと思うんですけど

も、津波、津波ばかり言いよったら、そんな意識になってくるんで、これは正解やと思うんですけども。

やっぱりまだまだそういう、ほな一番にもう逃げられないかのやと、ほな避難路、それと逃げる場所はどこなんやということを、いまだにはっきりと、指導しよるけども、できてない。吹上、吹上は言うけれども、吹上の一番奥の庵という寺があって、ちょうど田尻というところへ行くけもの道を広げていただいて、コンクリしているだけの話であって、地震でほな家がつぶれたら、ほなそこ通って行けるかっていったら、これも疑問。けど、そこまで言いよったら、これはもうできへん。そやから、ただ中西とか西、東にしたって、上にしたって、全体的にほんまに逃げるところ、どこもあれへんねんな。やっぱりそういうところを、やっぱりきっちりとある程度めどは、ある程度いうたらいかんけども、きっちりとめどが立つ、そして、1段階上がっていくというふうな、やっぱりそれも一つの方法やと思うんですよ。ただ、もう漠然と言いよったらやな。

それともう1点は、やっぱり執行部の方も、やっぱり学校関係やったら教育委員会、また保育所は保育所でまた所管が違うと。また、農林振興関係もあるんで、やっぱりその辺の執行部の出席要求等もここで検討していただいたらなと、私はそない思います。

○谷口博文委員長 順次、そのときの議題によって説明員というのは要請しようと思っています。それで、総合的に今後の進め方ということで、順次、要は地震、津波、要は災害発生時にいかなるすべきかということを十分審議していききたいと。それで、次回はですね、きょうの総合的なお話を聞いておったら、やはり避難の周知というか、情報伝達と、それと避難路の整備、ハード事業について次回はやりたいなというような思いがあるんですけど、いかがですか。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○谷口博文委員長 ほんなら説明員として情報課であるとか、要は避難の周知いうことなので、情報伝達の情報課であったり、その辺、周知とそれと避難路の整備ということで、集中的にやっていきたいなというような思いがありますんで、きょうはもうこれで今後の進め方、順次やっていくんですけど、説明員はその都度、その都度、説明員、自主防災、長船委員が言うておったように、自主防災のときは自主防災の方に来ていただいて、生の声を聞くであるとか、当然、福祉だったらそうやし、学校のマニュアルづくりやったら教育委員会。次回は避難周知と、それと避難路整備ということで、集中的にやりたいと思いますので。

阿部委員。

○阿部計一委員 これは私の個人的な意見やけど、その都度、そうではなしに、執行部もそれは仕事なんやよって、学校関係、保育所関係、それから農林関係、だれか一人ずつ委員会あるごとに出席していただくと、当然やと思うんですけど、そうでなかったら、そんな委員会が3人でいつもやったら。

○谷口博文委員長 いやいや、学校のときは学校、また呼んでとか、そんなだめですか。阿部委員。

○阿部計一委員 委員会したら常に出席をしていただくように、委員長のほうから。それは皆に諮ってもうたらええけどな。それはその都度、どんな話が出てくるやわからへんやろ。私はそない思いますけど。

○谷口博文委員長 阿部委員からそのような意見が出ておるんですけど。出田委員。

○出田裕重委員 久米委員からも意見ありましたけども、何か白紙でもいいのでスケジュール表というか、まだ何も書き込まなくていいんですけども、何かそういう議論が次回できればなと思うんですけど。

○谷口博文委員長 最終的に、要は全部、先ほど冒頭に説明したようなことについて、それぞれ議論していかざるを得んかなというような思いがあります。それで、最終的には、やはり要は死者ゼロというか、市民の安全のための提言をやりたいなと。それで、集中的に次回は避難の周知、避難路の整備であるというようなこと、また、学校なら学校関係、順次やっていきたいなというような思いがありますんで、その辺、説明員に対して、阿部委員からできるだけ説明員、出ておったほうがええんじゃないかという意見について、各委員はどのように。
久米委員。

○久米啓右委員 説明員、多いほうがええんですけども、テーマを絞った委員会で審議あるいは議論したいと私の思いがありますので、例えば学校関係、保育所関係だと、そのときは当然出してもらわなアカンんですけども、委員会の審査内容も一応考えた中で、委員長の判断で要請されたらと思うんですけども。

○谷口博文委員長 そのようにさせていただいてよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○谷口博文委員長 ほな、次回は避難周知というか情報伝達手段と避難路のことについて集中的にやらせていただきたいと思います。

長船副委員長、お願いします。

○長船吉博副委員長 では、皆さん、本日は大変お忙しいところを御苦労さまでございました。次回はさっきも委員長が言ったようなテーマで行いますので、また個々、研さんを積んで次回の委員会に参加していただきますようお願いしまして、本日はこれで終わります。どうも御苦労さんでございました。

(閉会 午前 11 時 37 分)

委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

平成 24 年 1 月 13 日

南あわじ市議会地震・津波対策特別委員会

委員長 谷 口 博 文